

## 令和4年度最適化活動の目標の設定等

都道府県名： 福岡県  
 農業委員会名： 福岡市農業委員会

## I 農業委員会の状況(令和4年4月1日現在)

## 1 農業委員会の現在の体制

任命年月日	令和2年6月23日
委嘱年月日	令和2年6月29日

任期満了年月日	令和5年6月22日
---------	-----------

	農業委員	
	定数	実数
農業委員数	19	19
認定農業者	—	8
認定農業者に準ずる者	—	
女性	—	4
40代以下	—	1
中立委員	—	1

	定数	実数	担当区域数
農地利用最適化推進委員	25	25	19

## 2 農家・農地等の概要

	経営体数
総農家数	1,797
農業経営体数	1,039

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	農業者数(人)
基幹的農業従事者数	1,474
女性	600
40代以下	215

※ 直近の「農林業センサス」又は「農業構造動態調査」に基づいて記入

	経営体数(経営体)
認定農業者	214
基本構想水準到達者	3
認定新規就農者	20
農業参入法人	14
集落営農経営	0
特定農業団体	0
集落営農組織	0

※農業委員会調べ

単位:ha

	田	畑			計
		普通畑	樹園地	牧草畑	
耕地面積	1,500	274			1,780

※ 直近の「耕地及び作付面積統計」に基づいて記入

## II 最適化活動の目標

### 1 最適化活動の成果目標

#### (1) 農地の集積

##### ① 現状及び課題

現状	管内の農地面積(A)	これまでの集積面積(B)	集積率(B)/(A)
	1,780 ha	472.8 ha	26.6 %
課題	農業従事者が高齢化しており、地域における中核的担い手を持続的に確保し、担い手への農地の集約化を進めていく必要がある。また、認定農業者の基準に満たない農業経営者等への支援を積極的に行い、担い手として位置づけられる者の育成に努める。		

※1 農地面積は、直近の「耕地及び作付面積統計」における耕地面積を記入

※2 「農地の集積」は、経営局長通知の別表1に掲げる者への農地の集積をいう

※3 「集積面積」は、局長通知別表1に掲げる者へ集積された農地の面積をいう(以下同じ。)

##### ② 目標

農地の集積の目標年度	令和13年度	集積率	35 %
今年度の新規集積面積	10 ha	農地面積(C)	1,780 ha
今年度末の集積面積(累計)(D)	482.8 ha	(目標)今年度末の集積率(E)=(D)/(C)	27.1 %

※ 農地の集積の目標年度及び農地集積率には、設定した目標の根拠とした目標の目標年度及び当該目標年度における農地集積率を記入

#### (2) 遊休農地の解消

##### ① 現状及び課題

現状	直近の利用状況調査により判明した遊休農地の状況		
	1号遊休農地面積	うち緑区分の遊休農地面積	うち黄区分の遊休農地面積
	40.6 ha	40.6 ha	0 ha
課題	農業従事者の高齢化による離農が進む中、農家子弟による後継者が少なく、新規の就農者による新たな耕作面積増が限られているため、遊休農地が増加傾向にある。		

##### ② 目標

###### ア 既存遊休農地の解消

###### a 緑区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積(※1)	4.6 ha
緑区分の遊休農地の解消目標面積(※2)	0.9 ha

※1 令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積から令和3年度に新規発生した緑区分の遊休農地や利用が困難かつ利用見込のない農地の面積を差し引いた面積

※2 緑区分の遊休農地の解消目標は、令和3年度の利用状況調査における緑区分の遊休農地面積の5分の1の面積を記入

###### b 黄区分の遊休農地の解消

令和3年度の利用状況調査における黄区分の遊休農地	0 ha
--------------------------	------

黄区分の遊休農地の解消のための工程表の策定方針	
-------------------------	--

###### イ 新規発生遊休農地の解消

前年度に新規発生した緑区分の遊休農地の解消目標面積	1.6 ha
---------------------------	--------

(3)新規参入の促進

①現状及び課題

現状	令和元年度新規参入者		令和2年度新規参入者		令和3年度新規参入者	
	21	経営体	21	経営体	12	経営体
	7.7	ha	6.5	ha	3.3	ha
課題	新規参入時に必要となる良好な農地確保の困難性、農作業時に必要となる初期投資費用、天候の影響による農産物価格変動に伴う農業経営の不安定性など、農業経営参入への障壁を乗り越えるため、農業委員、農地利用最適化推進委員を中心に関係機関が連携してサポートする必要がある。					

※ 現状欄は、直近3年度の新規参入した経営体数と当該経営体の経営面積の合計の農地面積を記入

②目標

権利移動面積	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平均
	102.6 ha	60.2 ha	85.6 ha	82.8 ha
新規参入者への貸付等について農地所有者の同意を得た上で公表する農地の面積	8.2 ha			

※1 過去3年間の権利移動面積は、農地法(昭和27年法律第229号)第3条第1項に基づく許可及び農業経営基盤強化促進法第19条に基づき公告された農用地利用集積計画による権利移動面積(有償所有権移転(所有権に基づいて耕作の事業に供していたものに限る。)及び賃借権の設定並びに利用権の設定に限る。)を記入

※2 目標面積は、過去3年度の権利移動面積の平均の1割以上を記入

2 最適化活動の活動目標

(1)推進委員等が最適化活動を行う日数目標

1人当たりの活動日数	10 日/月	最適化活動を行う農業委員の人数	0 人
		農地利用最適化推進委員の人数	25 人

(2)活動強化月間の設定目標

活動強化月間の設定回数	3 回	
取組時期	取組項目	強化月間の内容
5月	遊休農地の解消	前年度、新規発生した遊休農地を中心に過去の遊休農地の解消に努める。
11月	新規参入の促進	農地利用状況調査及び意向調査をもとに貸借等が見込まれる農地を整理し、新規参入相談会などの機会を利用して、新規参入希望者へ情報提供する。
12月	農地の集積	地域の中心的な担い手に、利用意向調査により得られた情報を提供し、農地の集積に努める。

※1 取組項目欄は、①農地の集積、②遊休農地の解消、③新規参入の促進のいずれかを記入

※2 強化月間の内容欄は、活動強化月間の具体的な取組の内容を記入

(3)新規参入相談会への参加目標

新規参入相談会への参加回数	1 回		
開催時期	11月	相談会名	新規就農相談
参加者数	1名以上	開催場所	未定
相談会の内容	新規就農に関する相談等 (例年11月に開催されている『農林水産まつり』に、新規就農相談コーナーを設ける予定。)		
開催時期		相談会名	
参加者数		開催場所	
相談会の内容			

※ 新規参入相談会への参加回数欄は、推進委員等が1名以上参加する相談会の数を記入(参加者数によらず、1名以上が参加する新規参入相談会ごとに1回とする)